

三宅は屯倉、鳥飼は鳥養部から？

弥生時代に続いて、たくさんの古墳が作られた時代がやってきます。有力な豪族やクニの王が各地方に出現したことを意味します。こうして、やがて最も強力な大王家を中心とした連合政権である大和政権を成立させる方向に向かいます。大和政権が成立すると、以後は全国の豪族を支配していき、統一国家の形成に向かいます。

また、大陸や朝鮮半島から、多くのすぐれた技術や学術そして文化がもたらされた時代でもあります。海を越えた人々の往来が活発になってきたわけです。

興味深いことに、「三宅」や「鳥飼」といった摂津市域の地名の由来は、こんな古い時代にあるといわれているのです。



明和池遺跡の発掘調査の風景

昭和62年庄屋一丁目に位置します明和池遺跡で発掘調査が実施されました。このときの調査では弥生時代から戦国時代にいたる7時期の堆積が確認されました。とくに古墳時代後期の堆積からは掘立柱建物・溝などが確認されました

支配権を示す古墳

古墳のほとんどは、権力者のお墓と考えられています。古墳の出現は3世紀代にみられます。この時期には弥生時代の墳丘墓にあった豊富な地域色がなくなり、古墳の形や埋葬施設などに全国的な統一がみられるようになります。このような地域に強力な権力を示すシンボルとして大規模な古墳（主に前方後円墳）がつくられた時代を古墳時代といいます。

古墳の大きさは大小さまざまです。大きな古墳には、遺体と共に、鏡や玉、武具や馬具、農具な

どが納められ、古墳の表面は葺石で飾られ、古墳の上や周りには埴輪が並べられました。

膨大な人力と資材を必要とする大きなお墓を作った理由として、権力者の支配権と司祭権を示そうとしたものだと考えられています。祭を司ったり神の声を民衆に伝えたりする司祭権は支配権と一体のものでした。

古墳時代も後期になると、それまでのごく限られた人たちだけでなく、多くの豪族たちが古墳を造ります。これらの古墳は規模も小さく平地や山の尾根に群集して築かれます。これら後期古墳は前期古墳が竪穴式石室で単体埋葬である事に対し、横穴式石室で追葬が可能な家族墓的な性格を有していました。

摂津市域には、小山のように見える大きな古墳はありません。しかし、近年大阪市を中心とした平野部の長原遺跡などでは、深く埋もれた状況で4世紀から6世紀にかけての10m程度の小型方墳が群をなして発見されています。

摂津市内でも、埋もれてしまった小規模な古墳が見つかるかもしれません。

「須恵器」と製作集団

古墳時代になると、須恵器（すえき）と呼ばれる土器が作られるようになります。縄文土器や弥生土器は野焼きの軟質な土器でした。これに対して、須恵器は登り窯を使って高温で焼いた硬質の

土器です。これも大陸から入ってきた最新の技術のひとつです。また吹田市域は吹田古窯跡群といわれ、古墳時代におけるわが国有数の窯業地帯でした。特に現在の岸部地区では数多くの窯跡が見つかっています。

摂津市域では、岸部地区に近接する味舌地区を中心として、須恵器が採集されています。これらの土器の特徴として焼成が強すぎたり弱すぎたりといった不良品が多いことです。またヒビ割れが入ってしまっている使用できないような土器もあります。これらの土器から味舌地区にも登り窯があり、不要となった土器を廃棄したのか、岸部地区で作られた土器を選別する場があったのか、これらの採集土器から可能性が広がります。



蓋付高坏

旧味舌村西の口（現在の千里丘四丁目）出土。蓋と身の部分が焼成の際に密着してしまっています。6世紀前半頃の土器です。現在は奥田三男氏所蔵



提瓶

旧味舌村釜塚井（現在の千里丘四丁目）出土。焼成が不良のため軟質な土師器のような表面になっています。現在は橋本勝治氏所蔵

味舌地区で採集された須恵器

大和朝廷の直轄地「屯倉（ミヤケ）」

大和政権による全国支配が進むにしたがって、支配の仕組みが整備されていきます。その中のひとつに屯倉（ミヤケ）があります。屯倉とは、中央政府（朝廷）が直接支配する土地のことです。「ミ」は美称、「ヤケ」は公的な建物のことを指しますが、転じて朝廷の直轄地を意味するようになりました。各地に屯倉を設けることによって、朝廷の経済基盤を安定させ、同時に、そこを拠点として各地方を支配しようとしたものです。

三宅は屯倉

日本書紀に、現在の三嶋地方の地方官（県主・アガタヌシ）であった飯粒（イイボ）という者が40町の良田を朝廷に献上したという記述があります。これが竹村屯倉（タカフノミヤケ）の起源です。

竹村屯倉の存在は事実だと思われませんが、所在については、中世に三宅庄といわれた茨木市蔵垣内付近から摂津市北部の三宅地区をあて、ここが竹村屯倉の中心部だったのではないかという説があります。

他に茨木市の耳原・桑原付近とする説、『和名抄』の嶋上郡高上郷を高生（タカフ）郷の誤りとみてこれにあてる説があります。

屯倉は三宅・御宅・宮家などと表記されることもあります。このように「三宅」は古い歴史を持つ地名です。このような理由から、摂津市域の「三宅」は「屯倉」から来た地名だと考えられています。

鳥飼は鳥養部に関係？

統一国家が形成される時期、同族集団を氏族と呼び集団の族長的立場の首長が氏上（ウジノカミ）として一般の氏人（ウジビト）や、その私有民である部民・奴婢を支配していく体制が整備されていきます。

部民は、支配者に物資や労役を提供する義務があり、集団ごとに大伴部・中臣部のように豪族名、鳥養部・錦織部のように職能名、三嶋部のように地名などをつけて呼ばれました。

日本書紀には、「垂仁天皇の王子であるホムツワケノミコトが30歳になるまで一言も口をきかなかったが、ある者が鵠（クグイ）を献上し、遊ぶうちに言葉を発し、その快挙をたたえて鳥養部を設置した。」という記載が見られます。

摂津市以外にも淡路国津名郡・筑後国早良郡などにも鳥飼という地名が見られます。これらの地域は、古代の鳥養部と関係があるのではないかと考えられています。